

令和8年度「脱炭素×復興まちづくり」実証事業
審査基準及び採点表

評価委員 _____

応募者:

合計点 _____ /13

* 合計点は以下の式で算出
(確認項目①～⑦の平均点) × 1/2+総合評価点 × 1/2

- 採点の目安 10点 :特に優れている
 8点 :優れている
 6点 :問題ない(採択しても良い水準に達している)
 2点 :多少問題がある
 0点 :大きな問題がある
- ※配点15点の項目については、満点以外の上記点数に、1.5を乗じる。

1 確認項目

(「採点の目安」をご参照の上、全ての項目について各項目10点満点で採点してください。)

	項目	確認事項	評価 (配点10点【項目1,2,3,4,7】) (配点15点【項目5,6】)
1	業務の意義・目標の妥当性	・本実証及び実証後の具体的事業について、最終的な目標が明確かつ妥当であること。 ・本実証での実施内容とその成果の活用方法が具体的であること。	
2	事業計画	・業務の意義、最終的な目標に対して、実行可能で妥当な事業計画であること。 ・基礎調査や机上検討に加え、現地での調査・検証や簡易な試験等、現地での検討を通じて本業務にその検討結果が反映される見込みがあること。	
3	実施体制	・本業務の実施に当たり、代表業務責任者が共同実施者を総括して適切に進捗管理等を行うことが見込まれること。 ・市町村と協力・連携しながら、適切に事業を実施する体制が構築される見込みがあること。 ・複数の市町村を対象とする場合は、事業の実施に支障が生じないよう、十分な実施体制が構築される見込みがあること。 ・実証に係る検討項目や課題を明確に挙げた上で、それらを解決するために必要な知見、実施体制を有していること。	
4	モデル性	・脱炭素や資源循環に係る関連技術導入等や、自然共生、復興まちづくりに係る取組の社会実装に向けて、構想内容にモデル性が具体的に見込まれること。 ・脱炭素×復興まちづくりを通じて、地域内外への波及効果や地域における環境・経済・社会の統合的向上に資する業務内容であること。	
5	事業性	・脱炭素や資源循環に係る関連技術導入等や、自然共生、復興まちづくりに係る取組について社会実装を実現するための具体的な構想内容に事業性が見込まれること。 ・地域の需要やその創出可能性も含め、地域経済を踏まえた収益構造を生み出すための工夫が示されていること。	
6	地域の復興への貢献	・脱炭素×復興まちづくりの実現に向けて、業務内容に社会性が具体的に見込まれること。 ・地域との共生や地域のステークホルダーとの協働など、地域の復興・創生への貢献が見込まれること。 ・復興の現状や地域特性を踏まえ、地域課題の解決や地域資源の最大限の活用への貢献に向けた社会性が見込まれること。 ・地元企業等の参画により、地域の復興に貢献することが見込まれること。	
7	CO2削減効果に関する評価方法	・CO2削減効果を試算する適切な評価方法が前提条件も含め具体的に明記されていること。 ・脱炭素技術等を複合的に利用することによる相乗効果等が期待される場合にはその評価方法も具体的に明記されていること。	

2 総合評価

①～⑦の確認項目の観点に加え、3の事業経費の妥当性やそれ以外の観点も含めた総合評価を、「採点の目安」をご参照の上、10点満点で採点してください。また、問題点や変更すべき内容等についてコメントがありましたら、こちらにまとめてご記入ください。

	評価 (10点満点)	コメント
総合評価		

3 事業経費の妥当性

(事業経費が妥当であるかどうかを評価いただき、A(妥当)、B(やや経費過剰)、C(非常に経費過剰)の3段階でご記入ください。BまたはCとした場合は、コメント欄にそのように判断した理由をご記入ください)

	評価 (A,B,Cの3段階)	コメント
事業経費の妥当性		